

## 浜の活力再生プラン

## 1 地域水産業再生委員会

組織名	樽井地区地域水産業再生委員会
代表者名	船野久文

再生委員会の 構成員	樽井漁業協同組合、泉南市
オブザーバー	大阪府水産課

※再生委員会規約及び推進体制の分かる資料を添付すること。

対象となる地域の範囲及び漁業の種類	泉南市樽井区 底曳網1、流し網2、刺網等11 その他20 漁業者数28
-------------------	----------------------------------------

※策定時点で対象となる漁業者数も記載すること。

## 2 地域の現状

## (1) 関連する水産業を取り巻く現状等

樽井地区は、大阪府泉南市樽井に位置し、前方には関西国際空港、淡路島を望み、潮流と栄養塩に富んだ好漁場である大阪湾全域に於いて、従前より主に流し網漁業(サワラ、ハネ、チヌ等)刺網漁業(メイタ、カレイ、キス、サヨリ等)やあなご籠漁業(あなご)を四季それぞれ営んできた。

しかしながら、当地区に於いては、特に近年現業者の高齢化と後継者不足の問題は他地区以上に顕著で、水揚げ量は20トン前後(平成24年漁政調査では23トン)と往時の半数以下となっている。

合わせて燃料費の高騰や漁獲高の減少及び魚価の低迷が続き、すべての指標が右肩下がりの厳しい状況下にある。

こうしたことから、漁協経営を安定的な軌道に乗せるため、恵まれた漁港立地環境のもと、高鮮度出荷が可能な「活魚基地」や「活魚販売」を確立し、又、付加価値を高めた水産一次加工品の開発も行い、限られた資源をフルに活用して消費者と直結した樽井漁協にふさわしい生業(なりわい)の事業化を目指している現状である。

## (2) その他の関連する現状等

樽井地区地域に於いては、関西国際空港建設に伴う大阪府南大阪湾岸整備事業(りんくうタウン整備事業)の埋立区域に含まれた為、同埋立整備事業に伴う共同漁業権の存する海域の一部削減や、藻場の喪失、産卵場、育成場の消滅によって漁業生産上、大きな漁獲減となった。

このため、漁港・漁場と組合運営上の激変に見舞われた。又、他地区同様、漁業用資材や燃料の高騰によるコスト増大等の構造的要因により、漁業者の所得は減少の一途をたどっている。又、組合が管理運営する施設の南海巨大地震に対する備えのための津波対策が今後の課題である。

### 3 活性化の取組方針

#### (1) 基本方針

##### 1. 漁業収入向上のための取組

- ・消費ニーズに基づく販売手法の導入と新たな加工品の開発

共同利用施設（活魚水槽、一次加工場、調理場）の再整備を行い、その一部を直売所にも活用することにより、水揚げされた漁獲物の付加価値を高めた売れる物づくりを推進する。

- ・販売ルートを多様化し流通させることにより、漁獲物の出荷の安定化と収益の向上を図る。

地の利を生かした漁港施設内の直売所を拠点に、せんなんわくわく広場（道の駅的施設）での直接販売の取組み、及び海上釣り堀サザンとの連携を構築し環境観光漁業への取組をすすめる。

- ・地元産水産物の認知度向上

大阪湾でとれる水産物の美味しさを消費者に広めるため平成15年度より始まった周辺5漁協の主催によるイベント「りんくうタコカーニバル」による魚食普及の推進や地域ブランドの確立で魚価の底上げを目指す。

- ・漁場環境の保全等

海底耕耘やゴミの清掃活動及びアマモの植付、育成等により水産資源の保護、回復、増大に努め漁獲量の安定的な水揚げを維持するよう努める。

以上のように消費者との直接の接点を広げる中で、組合員の意識改革を常に確認把握しながら目的達成に向け取り組む。

##### 2. 漁業コスト削減のための取組み

- ・燃油消費量の抑制

全漁業者は、定期的な船底清掃や減速運航等の実施を徹底し、燃油消費量の削減を図る。

- ・セーフティネット構築事業への加入促進

漁協は、燃料高騰へ備えるため、組合員のセーフティネット構築事業への加入促進を図る。

#### (2) 漁獲努力量の削減・維持及びその効果に関する担保措置

漁業法及び大阪府漁業調整規則による規制のほか、漁業者間で自ら約定する自主的資源管理を進め、漁業資源の維持・安定化に努める。

※プランの取組に関連する漁業調整規則や漁業調整委員会指示等について記載する。

(3) 具体的な取組内容 (毎年ごとに数値目標とともに記載)

1年目 (平成29年度)

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組みにより基準年比 <b>0.5%</b>の収入の伸びを見込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費ニーズに基づく販売手法の導入と新たな加工品の開発             <p>既存の組合10t活魚水槽の点検再整備及び水産物の付加価値を高める為の一次加工場、調理場等の整備を行い、りんくうタウン南部地区の特性を活かし関係機関との協力を進める。又、第三者水産業関連機関や水産企業の専門的技術サポートも得て活魚水槽による最適販売をめざした一時蓄養の検討を行う。</p> <p>既設の建物の空閑地の有効利用として、平成26年度より開設された海上釣り堀サザンと連携した海鮮バーベキューコーナーの検討を行い、水揚物の販売促進を図る。</p> </li> <li>・販売ルートを多様化し流通させ収益の向上を図る。             <p>漁港内の直売所の他、せんなんわくわく広場(道の駅的施設)との関係強化を行い、組合が出店運営できる「直販の漁師市場」の様な飲食施設出店の足掛かりを試行し雇用確保、所得向上を目指す。</p> </li> <li>・地元産水産物の認知度向上             <p>大阪湾でとれる水産物の美味しさを消費者に広めるため、平成15年度より始まった周辺5漁協が主催するイベント「りんくうタコカーニバル」により魚食普及の推進や地域ブランドの確立で魚価の底上げを目指す。</p> <p>又、今年17期目を迎える海水浴場の運営の実績や、毎年開催が恒例となってきた数万人規模の音楽イベントとの接点を泉南市、泉南市観光協会等関係機関との関係を密にしながらい進め認知度向上に取組む。</p> </li> <li>・漁場環境の保全等             <p>近隣漁協との共同で行う海底耕耘は、海底のゴミを除去した後、堆積物を海底耕耘機により攪拌し、海底質の環境改善を図り、魚介類の生育環境を整える。モニタリングによる海底状況の確認を事後に行い、改善状況の把握に努める。</p> <p>りんくう5漁協が行っているアマモ生育・育成事業は魚介類の産卵・繁殖の場であり、モニタリングの結果を踏まえアマモ場の拡大を図る。</p> </li> </ul> <p>1年目の取り組みを検証し、次年度への取り組みに活かす。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃油消費量の抑制             <p>全漁業者は、定期的な船底清掃や減速航行など省燃油活動に取り組む。</p> </li> <li>・燃油高騰への備え             <p>漁協は、燃油高騰への備えるため、組合員のセーフティネット構築事業への加入促進を図る。</p> <p>以上の取組みにより5%の燃油使用料の削減を目指す。(対基準年比)</p> </li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>産地水産業強化支援事業(ハード事業)・水産多面的機能発揮対策事業          漁業経営セーフティネット構築事業・省エネ機器等導入推進事業</p>

2年目（平成30年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組みにより基準年比 1.0%の収入の伸びを見込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費ニーズに基づく販売手法の導入と新たな加工品の開発             <p>10t 活魚水槽を利用した一次加工場と共同施設内直販所の運営を軌道に乗せる。又、第三者水産業関連機関や水産企業の専門的技術サポートを得て活魚水槽による最適販売をめざした養殖業の検討を行う。</p> <p>海鮮バーベキューコーナーの運営についてはサザンビーチでのイベント等との連絡調整を行いながら、関係諸団体に宣伝周知徹底を図っていく。</p> </li> <li>・販売ルートを多様化し流通させ収益の向上を図る             <p>漁港内直売所の他、せんなんわくわく広場（道の駅的施設）との関係強化を行い、組合が出店運営できる「直販の漁師市場」の様な飲食施設出店の足掛かりを試行し雇用確保、所得向上を目指す。</p> </li> <li>・地元産水産物の認知度向上             <p>大阪湾でとれる水産物の美味しさを消費者に広めるため平成15年度より始まった周辺5漁協が主催するイベント「りんくうタコカーニバル」により魚食普及の推進や地域ブランドの確立で魚価の底上げを目指す。又、たこカーニバルに参加している団体（例：大阪観光大学）等の協力を得ながらイベント用の地元産品特別のメニューの開発を進める。</p> </li> <li>・漁場環境の保全等             <p>近隣漁協との共同で行う海底耕耘は、海底のゴミを除去した後、堆積物を海底耕耘機により攪拌し、海底質の環境改善を図り、魚介類の生育環境を整える。モニタリングによる海底状況の確認を事後に行い、改善状況の把握に努める。</p> <p>りんくう5漁協が行っているアマモ生育・育成事業は魚介類の産卵・繁殖の場であり、モニタリングの結果を踏まえアマモ場の拡大を図る。</p> </li> </ul> <p>2年目の取り組みを検証し、次年度への取り組みに活かす。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃油消費量の抑制             <p>全漁業者は、定期的な船底清掃や減速航行など省燃油活動に取り組む。</p> </li> <li>・燃油高騰への備え             <p>漁協は、燃油高騰への備えるため、組合員のセーフティネット構築事業への加入促進を図る。</p> <p>以上の取組みにより5%の燃油使用料の削減を目指す。（対基準年比）</p> </li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>産地水産業強化支援事業（ハード事業）・水産多面的機能発揮対策事業          漁業経営セーフティネット構築事業・省エネ機器等導入推進事業</p>

3年目（平成31年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組みにより基準年比 2.0%の収入の伸びを見込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費ニーズに基づく販売手法の導入と新たな加工品の開発             <ul style="list-style-type: none"> <li>10t 活魚水槽を利用した一次加工場と共同施設内直販所の運営を確立する。又、第三者水産業関連機関や水産企業の専門的技術サポートを得て活魚水槽による一時蓄養と最適出荷の検討を引き続き行う。</li> <li>海鮮バーベキューコーナーの運営についてはサザンビーチでのイベント等との連絡調整を行いながら、関係諸団体に宣伝周知徹底を引き続き行う。</li> </ul> </li> <li>・販売ルートを多様化し流通させ収益の向上を図る             <ul style="list-style-type: none"> <li>せんなんわくわく広場（道の駅的施設）との関係強化を行い 組合が出店運営できる「直販の漁師市場」の様な飲食施設での直販を定期化させる。</li> </ul> </li> <li>・地元産水産物の認知度向上             <ul style="list-style-type: none"> <li>大阪湾でとれる水産物の美味しさを消費者に広めるため平成15年度より始まった周辺5漁協が主催するイベント「りんくうタコカーニバル」により魚食普及の推進や地域ブランドの確立で魚価の底上げを目指す。又、たこカーニバルに参加している団体（例：大阪観光大学）等の協力を得ながらイベント用の地元産品特別のメニューの開発を進める。</li> </ul> </li> <li>・漁場環境の保全等             <ul style="list-style-type: none"> <li>近隣漁協との共同で行う海底耕耘は、海底のゴミを除去した後、堆積物を海底耕耘機により攪拌し、海底質の環境改善を図り、魚介類の生育環境を整える。</li> <li>モニタリングによる海底状況の確認を基に、新たなアマモ場の拡大を目指し育成するための搬種シートを新たに2か所（10㎡）追加しアマモの発芽、育成を促進する。</li> </ul> </li> </ul> <p>3年目の取り組みを検証し、次年度への取り組みに活かす。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃油消費量の抑制             <ul style="list-style-type: none"> <li>全漁業者は、定期的な船底清掃や減速航行など省燃油活動に取り組む。</li> </ul> </li> <li>・燃油高騰への備え             <ul style="list-style-type: none"> <li>漁協は、燃油高騰への備えるため、組合員のセーフティネット構築事業への加入促進を図る。</li> </ul> </li> </ul> <p>以上の取組みにより5%の燃油使用料の削減を目指す。（対基準年比）</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>産地水産業強化支援事業（ハード事業）・水産多面的機能発揮対策事業          漁業経営セーフティネット構築事業・省エネ機器等導入推進事業</p>

4年目（平成32年度）

<p>向上のための取組</p>	<p>以下の取組みにより基準年比 3.0%の収入の伸びを見込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費ニーズに基づく販売手法の導入と新たな加工品の開発             <p>10t 活魚水槽を利用した一次加工場と共同施設内直販所の運営を確立する。又、第三者水産業関連機関や水産企業の専門的技術サポートを得て活魚水槽による一時蓄養と最適出荷の検討の実験的試行を行う。</p> <p>海鮮バーベキューコーナーの運営についてはサザンビーチでのイベント等との連絡調整を行いながら、関係諸団体に宣伝周知徹底を引き続き行う。</p> </li> <li>・販売ルートを多様化し流通させ収益の向上を図る             <p>せんなんわくわく広場（道の駅的施設）との関係強化を行い 組合が出店運営できる「直販の漁師市場」のスムーズな事業導入へ繋いでいく。</p> </li> <li>・地元産水産物の認知度向上             <p>大阪湾でとれる水産物の美味しさを消費者に広めるため平成15年度より始まった周辺5漁協が主催するイベント「りんくうタコカーニバル」により魚食普及の推進や地域ブランドの確立で魚価の底上げを目指す。又、たこカーニバルに参加している団体（例：大阪観光大学）等の協力を得ながらイベント用の地元産品特別のメニューの開発を進める。</p> <p>ここ毎年開催が恒例となってきた数万規模の音楽イベントとの信頼関係の下「即売会」へ出店出来る体制の構築を目指す。</p> </li> <li>・漁場環境の保全等             <p>近隣漁協との共同で行う海底耕耘は、海底のゴミを除去した後、堆積物を海底耕耘機により攪拌し、海底質の環境改善を図り、魚介類の生育環境を整える。</p> <p>モニタリングによる海底状況の確認を基に、新たなアマモ場の拡大を目指し育成するための搬種シートを新たに2か所（10㎡）追加しアマモの発芽、育成を促進する。</p> </li> </ul> <p>4年目の取り組みを検証し、次年度への取り組みに活かす。</p>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃油消費量の抑制             <p>全漁業者は、定期的な船底清掃や減速航行など省燃油活動に取り組む。</p> </li> <li>・燃油高騰への備え             <p>漁協は、燃油高騰への備えるため、組合員のセーフティネット構築事業への加入促進を図る。</p> <p>以上の取組みにより5%の燃油使用料の削減を目指す。（対基準年比）</p> </li> </ul>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>産地水産業強化支援事業（ハード事業）・水産多面的機能発揮対策事業          漁業経営セーフティネット構築事業・省エネ機器等導入推進事業</p>

5年目（平成33年度）

<p>漁業収入向上のための取組</p>	<p>以下の取組みにより基準年比 4.0%の収入の伸びを見込む。          最終年であり、目標の達成を確実なものとするよう今迄の取組みの成果を分析・解析し、必要な見直しを行い、最終年度での効率的な実施に反映させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・消費ニーズに基づく販売手法の導入と新たな加工品の開発           <ul style="list-style-type: none"> <li>10t 活魚水槽を利用した一次加工場と共同施設内直販所の運営を確立する。又、第三者水産業関連機関や水産企業の専門的技術サポートを得ての活魚水槽による一時蓄養と最適出荷の検討を引き続き行う。</li> <li>海鮮バーベキューコーナーの運営についてはサザンビーチでのイベント等との連絡調整を行いながら、関係諸団体に宣伝周知徹底を引き続き行う。</li> </ul> </li> <li>・販売ルートを多様化し流通させ収益の向上を図る           <ul style="list-style-type: none"> <li>せんなんわくわく広場（道の駅的施設）との関係強化を行い 組合が出店、運営できる「直販の漁師市場」のスムーズな事業導入へ繋いでいく。</li> </ul> </li> <li>・地元産水産物の認知度向上           <ul style="list-style-type: none"> <li>大阪湾でとれる水産物の美味しさを消費者に広めるため平成15年度より始まった周辺5漁協が主催するイベント「りんくうタコカーニバル」により魚食普及の推進や地域ブランドの確立で魚価の底上げを目指す。又、たこカーニバルに参加している団体（例：大阪観光大学）等の協力を得ながらイベント用の地元産品特別のメニューの開発を進める。</li> <li>ここ毎年開催が恒例となってきた数万規模の音楽イベントとの信頼関係の下「即売会」へ出店出来る体制の構築を目指す。</li> </ul> </li> <li>・漁場環境の保全等           <ul style="list-style-type: none"> <li>引き続き近隣漁協との共同で行う海底耕耘は、海底のゴミを除去した後、堆積物を海底耕耘機により攪拌し、海底質の環境改善を図り、魚介類の生育環境を整える。モニタリングによる海底状況の確認を事後に行い、改善状況の把握に努める。</li> <li>りんくう5漁協が行っているアマモ生育・育成事業は魚介類の産卵・繁殖の場であり、モニタリングの結果を踏まえアマモ場の拡大を図る。</li> </ul> </li> </ul>
<p>漁業コスト削減のための取組</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・燃油消費量の抑制           <ul style="list-style-type: none"> <li>全漁業者は、定期的な船底清掃や減速航行など省燃油活動に取り組む。</li> </ul> </li> <li>・燃油高騰への備え           <ul style="list-style-type: none"> <li>漁協は、燃油高騰への備えるため、組合員のセーフティネット構築事業への加入促進を図る。</li> </ul> </li> </ul> <p>以上の取組みにより5%の燃油使用料の削減を目指す。（対基準年比）</p>
<p>活用する支援措置等</p>	<p>産地水産業強化支援事業（ハード事業）・水産多面的機能発揮対策事業          漁業経営セーフティネット構築事業・省エネ機器等導入推進事業</p>

※プランの実施期間が6年以上となる場合、記載欄は適宜増やすこと。

※「活用する支援措置等」欄に記載するのは国の支援措置に限らない。

(4)関係機関との連携

再生委員会のメンバーである樽井漁業協同組合、泉南市が連携し、オブザーバーである大阪府水産課の助言を受け、地域で知恵を出し合い、目標達成に向け、プランの実施を押し進める。

4 目標

(1)数値目標

漁業所得の向上 %以上	基準年	平成    年度    :	漁業所得	千円
	目標年	平成    年度    :	漁業所得	千円

(2)上記の算出方法及びその妥当性

5 関連施策

活用を予定している関連施策名とその内容及びプランとの関係性

事業名	事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性
水産多面的機能発揮対策事業	干潟の保全（耕耘等）により、地域の水産資源の維持・回復を図り、漁獲量を増やすことで浜の活力再生プランの目標である漁業者の漁業所得を引き上げる
省燃油活動推進事業	貝等船底の付着物を清掃することにより漁船の抵抗を減らし、燃油消費量の減少による漁業経費の削減を図る。
漁業経営セーフティネット構築事業	燃油価格の高騰による経費の拡大を防ぎ、将来に向けた漁業経営の安定を目指す。
産地水産業強化支援事業	10t活魚水槽の整備（鮮度保存施設） 一次加工場、調理場の整備
新規漁業就業者総合支援事業	未経験者（研修生）の研修にかかる費用を支援する仕組みを活用し、後継者育成に努める。

※具体的な事業名が記載できない場合は、「事業名」は「未定」とし、「事業内容及び浜の活力再生プランとの関係性」のみ記載する。

※本欄の記載により、関連施策の実施を確約するものではない。